

## P2-012

### 病児・病後児保育施設の看護職・保育職がとらえる他施設との連携

中村 明子<sup>1</sup>、西田 志穂<sup>2</sup>、飯村 直子<sup>3</sup>、  
吉野 純<sup>1</sup>、赤津 美雪<sup>4</sup>

<sup>1</sup>杏林大学 保健学部 看護学科、

<sup>2</sup>共立女子大学 看護学部、

<sup>3</sup>首都大学東京 健康福祉学部 看護学科、

<sup>4</sup>日本赤十字社医療センター

#### 【目的】

病児・病後児保育を含めた地域の子育て支援組織ネットワークの必要性が指摘されているが、他施設との連携の実態についての研究は少ない。そこで、看護職・保育職が病児・病後児保育施設における他施設（他の医療・福祉施設および行政）との連携についてどのようにとらえているかを明らかにするために本研究を行った。

#### 【方法】

質的帰納的研究法

研究参加者：首都圏および関西圏を中心とする病児・病後児保育施設（6施設）に勤務する看護職および保育職（以下、保育者）15名。

データ収集：インタビューガイドを用いて、施設ごとの半構成的なグループインタビューを行った。

データ分析：逐語録を作成し他施設との連携についてデータごとにまとめ、データ間の共通点や相違点を踏まえて質的帰納的に分析した。研究者間で協議しデータの妥当性を確保した。

倫理的配慮：研究代表者の所属機関の研究倫理委員会の承認を得て実施した。

#### 【結果】

保育者は、病児・病後児保育施設における他施設との連携について、次のようにとらえていた。

1. 病児・病後児保育施設の存在をもっと「広めていく」ために、保育園・幼稚園・小児科クリニックなど地域の子どもに関連する施設と連携を取りたいが、「壁」を感じることもある。
2. 子どもの普段の様子を知ったり、病児・病後児保育施設での様子をフィードバックしたりするために、子どもが通う「いつもの」保育園との距離を近づけたい。
3. 近隣の病児・病後児保育施設が連絡を取り合うことで、どの施設を利用して子どもと親の「安心感」につながっている。
4. 病児・病後児保育が子育て支援事業として「うまくいく」ためには行政との協働が必要なので、行政に関心を向けてもらい、話し合う機会を持ちたい。

#### 【考察】

病児・病後児保育は一般的に短期・単発での利用であるが、保育者は、子どもと親への支援をより良くするために、他施設とどのように連携すれば良いのかを具体的に考えており、連絡を取り合って情報を共有したり、要望を実現させるために試行錯誤を重ねたりしていた。病児・病後児保育の存在や役割が十分に周知されていないことによる連携の取りにくさがあり、その「壁」を突破するための有効な方法の構築が今後の課題であることが示された。

\* 本研究はJSPS科研費26463418の助成を受けた研究の一部である。

## P2-013

### 乳児期早期からのテレビの付けっ放しと発達との関係—縦断研究より—

大熊 加奈子<sup>1</sup>、谷村 雅子<sup>2</sup>

<sup>1</sup>日本女子大学 人間社会学部 心理学科、

<sup>2</sup>関東学院大学 人間環境研究所

#### 【目的】

2歳未満児のテレビ・ビデオ・DVD（以下、TV）の長時間視聴と言語・社会性の遅れとの関連の可能性が小児科医や発達の専門家から指摘され、1歳半児の集団調査で確認したが、その因果関係は明らかでない。

長時間視聴の発達への影響を検討する為、家庭でTVがついている時の行動をビデオ記録し、視聴習慣と発達との関係を縦断的に把握することにした。注視時間や視聴環境が変わらないことが示されている（本学会、2015年）。

#### 【方法】

8ヶ月の健常児22名を対象とし、普段TVを見る部屋で児がよく見る番組やビデオソフトを8ヶ月時に20分、1歳6ヶ月時に2時間再生し、児及び同室者の様子をTVの近くに設置した固定カメラで自動撮影することを保護者に依頼した。また、児の出生から撮影時までのTV歴、視聴環境や発達についての質問紙への記入も依頼した。ビデオ記録から対象児と同室者の行動を秒単位で起こし、両月齢時の視聴行動、TV歴、視聴環境と発達との関係を検討した。本研究について、大学の倫理委員会で承認を得ている。

#### 【結果および考察】

1歳6ヶ月でまだ有意語を2語以上話さない児が2名おり、観察時も明瞭な発語がなかった。この2名のみが乳児期早期から近くのTVが長時間（10時間と12時間）ついていた。見せる為にTVをつけ始めた時期は2名とも6ヶ月時で平均値であった。

観察時には1名は両月齢時とも情報番組が流れ、注視時間割合も1回の注視時間も平均より少なかったが他の遊びも少なかった。他1名は8ヶ月時には乳幼児番組を比較的長く見ていたが、1歳6ヶ月では年長児番組が流れ注視時間割合も1回の注視時間も少なかった。2名とも日常は子供番組は特に見せず、夢中で見ることや好みの番組はないと記載されていた。観察時には画面の登場人物・キャラクタからの働きかけ時に注視していた。

2名とも両月齢時に、親への発信、親からの発信、親への応答は観察されたが、親からの判り易い話し方での声かけは少なかった。運動発達は1名は8ヶ月時にまだお座りもはいはいもしていなかったが、1歳6ヶ月時には歩行していた。

乳児はまだあまり見ないと考えて子どもの近くでTVを付けっ放しにしている家庭が少なくない。しかし、TVがついていると言葉での声かけが少なく、子どももTVを集中して見ることは少なくともちらちらと気をとられて他の活動が低下するので、TVの付けっ放しが長期間続くと発達への影響が懸念される。